

編集後記

『眞實心』第四十二集が出来上がり、皆様にお届けすることができました。

今年度も宗教講座の講師の先生方には講話録の校正まで担当いただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

令和二年度の宗教講座は「すべて動画配信」という異例の形式での開催となりました。その要因となった新型コロナウイルスという目に見えない脅威は、それまで作り上げてきたさまざまな常識を見事なまでに覆っていました。そして同時に、私たちに意識の転換と新しい取り組みへの挑戦の機会をもたらしました。これまでの宗教講座では、多くの講師に遠方から本学まで足をお運びいただき、その場で貴重な講話を拝聴してきました。それが当たり前でもありませんでした。しかしながら、今年度はそれが難しいだけではなく、大講堂に参加者が一堂に会することもできなくなりました。一年前には人々が集うことを制限される事態が起るなど想像すらしていませんでした。

そのような中であって、例年通り五回の宗教講座を開催できましたことは、本当に意義

深いものと思われず。

今年の宗教講座はすべて動画配信と一言で申しましたが、その中には世界三か所をネットで繋いで行われた対談（第三回宗教講座）もあります。時差を飛び越えての試みは宗教講座初ではありましたが、これからの新しい講座の形を垣間見たような思いでありました。

また、第一回宗教講座「真宗における出遇いの意義―絶望のどん底に差し込んだ智慧の光―」（大谷大学文学部講師 Michael Conway 氏）ではアメリカで真宗の教えに触れたというお話があり、第三回宗教講座「ピュアランド―出会いが人生を作る―」（浄土真宗僧侶／北米開教使名倉幹氏・映像作家水上雅裕氏）ではアメリカで真宗の教えを布教しているというお話がありました。これは必然であったのでしょうか。いずれも真宗の教えとともに、それぞれの人生の分岐点についてお話いただいたのですが、これから様々な人生を歩んでいくであろう学生たちへの熱いメッセージが込められたものでした。

第二回宗教講座「オウム元死刑囚との交流を通して学んだこと」（浄専寺住職平野喜之氏）と第四回宗教講座「いのち」との向き合い方―これから医療者になる仲間へ―（ケアタウン小平クリニック在宅ホスピス緩和ケア医師 相河明規氏）では、「縁」を通して

考える「いのち」の尊さ、そして「いのち」への向き合い方について大きな宿題をいただきました。

第五回宗教講座「阿弥陀如来像の諸相」（京都市立芸術大学美術学部教授 礪波恵昭氏）では時代とともに変化する阿弥陀如来像の主要な形式について、貴重な資料に基づきお話しいただきました。そして阿弥陀如来像の様々な諸相が、阿弥陀仏如来の教えや救いに対する人々の期待に応えようとしてきた姿であることを教えて下さいました。

どの講話も現代社会で生きづらさを抱えたとき、あるいは何かしらの分岐点や命に向き合う場面に遭遇したときに思い出していただけれると思うものばかりです。そしてこの講話録が皆様にとってそのような存在となれば幸いです。

最後になりますが、ご講話をいただきました講師の先生方、そして、動画撮影および編集等にご尽力いただきました先生方ならびに関係者の方々に心より感謝申し上げます。

（編集委員会）